教科・科目名（単位数）		農業・総合実習（２単位）		ＨＲ コース	32HR ガーデンコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	教科書　造園計画(文部科学省編 海文堂出版) 自作プリント、資料等		

目標

２年次の造園計画を踏襲し、造園の計画・設計に必要な知識と技術を習得させ、造園空間のもつ機能を理解させるとともに、目的や環境に応じた造園空間を創造する能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	造園計画の意義と緑地環境の役割、環境と造園の様式、造園製図と造園デザインの基礎、庭園の計画、設計等を学習し、造園の現状や今日的な課題、実際に造園空間の設計をとおし、将来のビジョンや意欲関心を醸成させる。
② 思考・判断・表現	造園の目的は人間にとって住みよい、質の高い環境(アメニティー)の創造や提供であることを理解させ、各造園関連科目の集大成としての位置づけを考えさせ、応用及び実物や製図として表現させる。
③ 技能	造園製図。特に住宅庭園設計に重点を置き、造園史、造園様式、造園デザインの基礎を理解させ、実際に住宅庭園を見学し、創造を豊かにし、実践的な住宅庭園設計ができるように技能(スキル)を育む
④ 知識・理解	職業人育成の総合的な実習をとおして、知識や技術を習得させ、実学を重んじ実践的な能力と態度を育み、体系的に構築された座学や実習で得た知識や技術を応用できるようにする。

評価方法	(1)授業への取組み　：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容　：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等　：観察・実験に対する姿勢、器具の操作などから評価する。 (4)小テスト　：学習内容にあわせて問題を出題する。 定期考査

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	造園製図と造園デザインの基礎１	２年次から引き継いた住宅庭園設計を行い、設計知識と技術を養う。
	我が国の環境と造園様式1	江戸期、明治期に至る造園史について学習し、先人が残した作庭の技法やコンセプト等を理解する。また、公園制度について学習をする。
	造園製図と造園デザインの基礎２	色彩学を学習し、視覚による調和を理解させる。また、色彩マーカーを使用し、住宅庭園設計図面応用させる。
2	造園製図と造園デザインの基礎３	図面での住宅庭園設計を視覚的に立体化させ、課題等発見するために住宅庭園模型を製作する。また、模型製作に必要な知識と技術を習得させる。
	造園製図と造園デザインの基礎４	複数の住宅庭園プラン作成ができるように知識と技術を習得させる。
3	造園製図と造園デザインの基礎５	住宅庭園設計の課題を課し、高低差、複数台駐車できるプランを製図できる知識と技能を習得させる。

教科・科目名（単位数）		農業・フラワーアレンジメント （4単位）		ＨＲ コース	32HR フラワーコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	フラワーデザイン入門（日本フラワーデザイナー協会）		
目標	・日々の暮らしに草花を取り入れ、潤いのある豊かな生活を楽しむ力を育成する。 ・フラワーデザインの基礎となるアレンジメント・コーサージ・ブーケなどの技術を習得する。				

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	草花の装飾的特性や多面的利用について興味・関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生活と草花の利用における諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③ 技能	草花の装飾的特性をいかした利用方法を習得する。フラワーデザイン全般に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用している。
④ 知識・理解	生活や地域における草花の多面的な利用について基本的な知識を身に付け理解している。草花の装飾的特性を理解する。

評価方法	(1)授業への取組み　：授業に対する姿勢、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実習等　：観察・実習に対する姿勢、用具の操作などから評価する。作品制作。 (4)小テスト　：学習内容にあわせて問題を出題する。 定期考査

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	(1)知っておきたい基礎知識	・道具と資材について学ぶ。・茎の切り方、水揚げ法を学ぶ。 ・ワイヤリングメソードを学ぶ。・テーピングを学ぶ。 ・リボンのつくり方について学ぶ。 ・フラワーデザインについて学ぶ。（押し花作品制作）
	(2)形の基本	・コサージ、ブートニアを学ぶ。 ・アレンジメント(ラウンド)
2	(2)形の基本 (3)植物を知る	・アレンジメント（四季に合わせたアレンジ） ・ブーケ ・植物の分類、テクスチャについて学ぶ。 ・フラワーデザインについて学ぶ。（押し花作品制作）
	(4)フラワーデザインのベーシック理論	・フラワーデザインの分類、花の造形、バランス、プロポーション、配色、作品制作の考え方について学ぶ。
3	(2)形の基本 (5)成功する色合わせの基本	・アレンジメント（四季に合わせたアレンジ） ・色相、明度、彩度、配色法について学ぶ。

教科・科目名（単位数）		農業・伊豆の自然（２単位）	ＨＲ コース	32HR ガーデンコース
学年	3年	使用教科書・副教材等	図解　樹木の診断と手当て(農山漁村文化協会出版)	

目標

緑化材料である樹木に着目し、森林、公園樹、街路樹等の樹木の存在が人間にとって有益であることに着目し、生態系や住環境を見直し、樹木の持つ機能を高める知識や技術を習得し、緑地環境の創造、保全を推進できる能力や態度を育む。

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	樹木の多面的機能の発揮できるように必要な知識と技術を習得させる。また、樹体の構造を理解させ、立地環境での生育の違いや樹木の健全度を向上できる能力と態度を育む。
② 思考・判断・表現	樹体の内部構造を客観的に捉えることができ、樹種の違いによる成長の違い、異なる立地環境化での生育の差異などを理解することができ、科学的に検証できる態度と能力を育む。
③ 技能	将来、樹木医補、森林インストラクター等の資格と結び付け、樹木の診断等ができる能力や技術を習得させる。また、計測機器の取り扱い等理解させ、科学的根拠によって立証できるようにする。
④ 知識・理解	樹木を診て判断できるように眼力を養い、計測値などのデータや立地環境等を鑑み、的確に樹木の診断ができる能力と態度を育む。

評価方法	(1)授業への取組み	：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。
	(2)ノートの記載内容	：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。
	(3)観察・実験等	：観察・実験に対する姿勢、器具の操作などから評価する。
	(4)小テスト 定期考査	：学習内容にあわせて問題を出題する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	樹木について	葉の形態を調べ、同定を行える知識と技能を身に付ける。 30種同定できるように訓練を行う。(科目造園技術と関連)
	養水分の吸収と光合成 産物の転流	樹木が肥大成長できる仕組みや、葉のよる光合成の仕組み等を理解し、剪定等で失われる「葉」の重要性を説く。また、樹体の温度管理等の仕組みを説く。
2	木の育つ仕組み	年輪形成をとおして、樹木が自己中毒死して心材が形成され、成長応力やあて材の形成等について説く。また、導管、仮導管の大きさの違いによる樹木の成長違いや材としての価値の違いや樹液について説く。
	落葉で葉を更新する。	日長条件や環境の違いによる落葉の差異について学ぶ。また、落葉の仕組みを説き、葉の養分等が樹体に吸収され、離層が形成し葉に残った糖と色素によって、紅葉、黄葉、褐葉になることを説く。
3	植生	樹木は標高、緯度の違いにより植生が変わる。温量指数を用いて植生の違いを説く。
	木の根と共生する菌根菌、材木を腐らす腐朽菌	樹木の成長には根の成長が欠かせない。共生微生物と腐朽菌による樹木の影響を考察する。

教科・科目名（単位数）	農業・課題研究（２単位）	ＨＲ・コース	32HR
学年	３年	使用教科書・副教材等	
目標　　農業に関する課題を設定し，その課題の解決を図る学習を通して，専門的な知識と技術の深化，総合化を図るとともに，問題解決の能力や自発的，創造的な学習態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	農業に関する課題について興味・関心をもち、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	農業に関する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	課題解決に向けて合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	課題の解決に向けた学習を通して、専門的な知識を深化させている。

評価方法	課題研究ノート、ファイルの内容：記述の点検、確認、分析 調査・研究・実験への取り組み　：行動の観察、確認、分析 基礎的・基本的な知識の理解　　：研究報告書の作成、点検

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	研究題目設定	生徒自身が農業や園芸に関する課題を設定し、課題解決の為の研究や実験について計画をたてる。
	調査・研究・実験　1	計画に基づいて研究を行う。
2	調査・研究・実験　2	計画に基づいて、科学的な調査、研究、実験に取り組む。
		学校祭において研究成果途中経過の展示を行う。
3	まとめと自己評価	取組みの内容や結果をまとめ、報告書の作成を行う。

教科・科目名（単位数）		農業・植物バイオテクノロジー（２単位）	ＨＲ コース	32HR フラワーコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー（農文協）	
目標　植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得させ、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。				

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	植物に関するバイオテクノロジーについて興味・関心をもち、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	植物に関するバイオテクノロジーに関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	植物に関するバイオテクノロジーに関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	植物に関するバイオテクノロジーに関する基礎的な知識を身に付け、植物バイオテクノロジーの意義や役割を理解している。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等：観察・実験への取り組み、器具の操作などから評価する。 (4)定期考査：学習内容にあわせて問題を出題する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	1植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰの実際	(1) ｷｸの茎頂培養 (2) ﾗﾝ類、ﾓｳｾﾝｺﾞｹ、ユリの順化
	2植物の構造と機能	植物細胞の構造とはたらき・細胞分裂・生殖と遺伝について理解する。
	3植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰの実践	絶滅危惧種のﾓｳｾﾝｺﾞｹが抱える課題解決を研究テーマとした活動（年間を通して活動する）
	3植物ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰの実践	ｳｨﾙｽ検定ｷｯﾄを利用した判定活動
2	4植物の遺伝情報の利用	(1) 生殖と遺伝の仕組みについて理解する。 (2) DNAの構造について理解する。 (3) 細胞融合や遺伝子組換えについて理解する。 (4) DNA構造模型の制作、DNA抽出実験
	5バイオマス・エネルギーの利用	栽培植物、有機廃棄物の利用について理解し、私たちの生活とエネルギーについて考える。
	3植物バイオテクノロジーの実践	DNA鑑定ｷｯﾄを利用した鑑定活動
3	4植物の遺伝情報の利用	(5) 遺伝子組換え作物の種類と特性・安全性について考える。
	6植物バイオテクノロジーの成果と展望	学習内容について1年間のまとめを行う。

教科・科目名（単位数）	農業・総合実習（２単位）	ＨＲ コース	32HR フラワーコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	草花（実教出版）

目標　　農業の各分野における体験的な学習を通して、総合的な技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	農業実習を通して専門的な栽培技術を学習し、農業に関する高い興味・関心をもち、その諸課題について改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	草花生産や経営管理の諸課題を解決するために思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、その解決方法適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	草花生産や経営管理の各場面に応用出来る技術を身に付け、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	草花生産の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花生産の意義や役割を理解している。

評価方法	(1)授業への取組み　：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容　：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等　：観察・実験に対する姿勢、器具の操作などから評価する。 (4)小テスト　：学習内容にあわせて問題を出題する。 定期考査

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	花壇用草花生産	花壇用草花生産の特徴 ポーチュラカやゼラニウムを利用し、栄養繁殖(さし木)の知識を深める。 出荷調整に関する基礎知識を理解する。 ※ペチュニア・ベコニア・マリーゴールドの出荷調整を実際に行う。
	生活と草花の利用	園芸デザイン プランターの作製
2	切り花生産 草花の特性と栽培技術	宿根草の切り花 品種改良と繁殖 生産施設と栽培環境の調節
	生活と草花の利用	フラワーの加工・利用に関する知識を得る パンジーのプランター定植。 花壇苗を利用した立体花壇の作成。 種子繁殖に関する技術を体験して学ぶ。 ベコニアセンパフローレンスの播種、サルビアの播種実習などを通して播種に必要な技術を身につける。
3	草花経営の改善	生産施設の清掃や、機械の手入れ等を行う。また、施設内の土壌の消毒等も行う。

教科・科目名（単位数）		農業・草花（３単位）		ＨＲ コース	32HR ガーデンコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	草版（実教出版）		
目標　草花の生産と経営に必要な知識技術を習得させ、草花の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。					

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	草花の生産と経営について興味・関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	草花の生産と経営に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	草花の生産と経営に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花生産に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	草花の生産と経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花生産の社会的役割を理解している。

評価方法	(1)授業への取組み　：授業に対する姿勢、学習態度、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実習等　：観察・実習に対する姿勢、用具の操作などから評価する。 (4)小テスト　：学習内容にあわせて問題を出題する。 定期考査

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	(1) 草花生産と消費の動向 (2)花壇用草花生産	・草花園芸の特徴を学ぶ。 ・草花の流通と需要の動向を学ぶ。 ・花壇用草花生産の特色を学ぶ。 ・花壇苗（マリーゴールド、サルビア、ペチュニア、）
	(3)草花の特徴と栽培技術 (4)生活と草花の利用	・草花の生育と栽培技術を学ぶ。 ・キク（三本仕立て、福助） ・園芸デザインについて学ぶ。
2	(3)草花の特徴と栽培技術	・草花の生育と栽培技術を学ぶ。 ・キク（三本仕立て、福助） ・草花の生育と環境について学ぶ。
	(3)草花の特徴と栽培技術	・草花の生育と栽培技術を学ぶ。 ・キク（三本仕立て、福助） ・品種改良と繁殖について学ぶ。
3	(4)生活と草花の利用	・草花の多面的利用について学ぶ。 ・園芸デザインについて学ぶ。

教科・科目名（単位数）	農業・草花（３単位）	ＨＲ コース	32HR フラワーコース
学年　３年	使用教科書・副教材等	草花（実教出版）	
目標　　草花の生産と経営に必要な知識技術を習得させ、草花の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。			

評価の観点とその趣旨

①　関心・意欲・態度	草花の生産と経営について興味・関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②　思考・判断・表現	草花の生産と経営に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。
③　技能	草花の生産と経営に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、草花生産に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④　知識・理解	草花の生産と経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、草花生産の社会的役割を理解している。

評価方法	(1)授業への取組み：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実習等：観察・実習への取り組み、用具の操作などから評価する。 (4)中間・定期考査：学習内容にあわせて問題を出題する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	(1)草花生産の役割と動向 (2)草花の特性と栽培技術	・草花生産の特性を学ぶ。 ・草花の流通と需要の動向を学ぶ。 ・春まき草花を利用しながら草花の生育や生理、栽培環境等を学ぶ。
	(3)草花の生産 (4)生産の実践	・春まき草花を利用しながら施設利用や管理、生産評価を学ぶ。 ・ポット苗（ﾏﾘｰｺﾞｰﾙﾄﾞ、ｻﾙﾋﾞｱ、ﾍﾟﾁｭﾆｱ、ﾆﾁﾆﾁｿｳ、ﾍﾞｺﾞﾆｱ、ﾎﾟｰﾁｭﾗｶ） ・鉢苗（ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙﾍﾞｰﾙ、ｽﾄﾚﾌﾟﾄｶｰﾊﾟｽ）
2	(2)草花の特性と栽培技術 (3)草花の生産 (4)生産の実践	・秋まき草花を利用しながら草花の生育や生理、栽培環境等を学ぶ。 ・春まき草花を利用しながら施設利用や管理、生産評価を学ぶ。 ・ポット苗（ﾊﾟﾝｼﾞｰ、ﾋﾞｵﾗ、耐寒ﾏﾗｺｲﾃﾞｽ、ｶﾚﾝｼﾞｭﾗ、ﾉｰｽﾎﾟｰﾙ） ・鉢苗（ﾌﾟﾘﾑﾗ、ｼｸﾗﾒﾝ）
	(5)草花経営の改善 (4)生産の実践	・作業体系の改善を学ぶ。 ・生産と流通の改善を学ぶ。 ・販売や実習を通して草花経営の改善点を図る。 ・切り花（ｽﾀｰﾁｽ、ｽﾄｯｸ）
3	(4)生産の実践	・切り花の栽培管理や出荷方法を学ぶ ・草花の栽培管理や土壌管理を通して次年度の準備を学ぶ。

教科・科目名（単位数）		農業・造園技術（４単位）	ＨＲ コース	32HR ガーデンコース
学年	３年	使用教科書・副教材等	教科書 造園技術（文部科学省編 東京電機大学出版） 副教材 葉で見分ける樹木（小学館）他、自作プリント等	

目標

造園の施工と管理に必要な知識と技術を習得させ、造園の特質を理解させるとともに、合理的に施工し維持管理する能力と態度を育てる。また、造園が住環境や環境創造に一翼を担うことを理解させ、施工を体験することによって、造園の伝統手法の継承を行い、正しい職業観を持たせ将来の担い手育成を行う。

評価の観点とその趣旨

① 関心・意欲・態度	緑地環境の創造や施工をとおして、造園技術が総合的な技術であることを理解させるとともに、造園空間の創出と維持管理を図る造園の伝統的手法の継承や職業観を持たせ、後継者育成について関心を持たせる。
② 思考・判断・表現	造園空間を今まで培った技術や経験、造園関連科目との連携によって、諸問題を解決する能力を育み、応用や発展的学習に繋げるとともに、課題を解決できる能力や思考、判断を育み、合理的に表現できる態度と能力を培う。
③ 技能	造園施工の手法、日本の伝統的造園の手法等を実践し、体験によって技を会得し、後世に繋げる職業人になるための技術を習得させ、緑地環境の創出ができるように技術（スキル）を磨く。
④ 知識・理解	職業人育成の総合的な実習をとおして、知識や技術を習得させ、実学を重んじ実践的な能力と態度を育み、体系的に構築された座学や実習で得た知識や技術を応用できるようにする。

評価方法	(1)授業への取組み ：授業に対する姿勢、授業への取組み、関心等で判断する。 (2)ノートの記載内容 ：授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。 (3)観察・実験等 ：観察・実験に対する姿勢、器具の操作などから評価する。 (4)小テスト 定期考査 ：学習内容にあわせて問題を出題する。

学習計画

学期	単元名	主な学習活動（指導内容）
1	庭園施設工 四つ目垣	四つ目垣の小庭園作庭をとおし、植物材料や石材の特性、施工に対しての思考や技能を育み、作庭の知識や理解を深める。また、単元と職業観の育成に影響を与える国家検定３級造園技能士の演習を行う。
	植物及び工作物の管理 植物の管理1	日本の伝統手法である樹木の透かし剪定等を行い、緑地環境の創出を行い樹木の生理を考えた剪定方法を習得させる。
	植物及び工作物の管理 植物の管理2	樹木の同定を行う。50種の樹木鑑定を行い、樹種名の理解に努める。
2	植栽とデザイン 植栽の方法 根巻き	移植の適期を理解し、科学的知見による移植の方法や根巻きの仕方について考察をする。関連科目としては学校設定科目「伊豆の自然」と連携を行い、知識や理解を深める。
	植栽とデザイン 植栽の方法 支柱	目的と使途にあった支柱をすることで、樹木が活着する。支柱の取り付けの手法を理解し、技法を習得させる。また、科学的知見により、支柱の問題提起を行う。学校設定科目「伊豆の自然」と連携を行う。
	庭園施設工 建仁寺垣	建仁寺を主体とした茶庭風小庭園の作庭をとおし、植物材料や石材の特性施工に対しての思考や技能を育み、作庭の知識や理解を深める。また、単元と職業観の育成に影響を与える国家検定１級造園技能士の演習を行う。
3	庭園施設工 建仁寺垣	建仁寺を主体とした茶庭風小庭園の作庭をとおし、植物材料や石材の特性施工に対しての思考や技能を育み、作庭の知識や理解を深める。また、単元と職業観の育成に影響を与える国家検定１級造園技能士の演習を行う。